中長期強化育成プラン2022-2032の概要

資料７　２０２２／３／２３
令和３年度第２回（臨時）評議員会

作成：2022/3/8 強化育成本部

強化育成本部のミッションとビジョン

「JTA中長期戦略」を踏まえ下記の5つをミッションとし、新たな「普及・育成・強化のつながりの構築」に取り組みます

・スタープレーヤーを連続的に輩出する
・恒久的に世界ランキングTop100にランクする選手を輩出する
・世界ランキングTop50にランクする選手を輩出する
・応援される日本代表（デ杯・BJK杯）をつくり上げる
・上記につながる育成環境の構築

「強化育成本部の2017-21の振り返り内容」、そして「これからの社会とスポーツやテニス環境」を勘案した上で、私たちが目指したいこれからの日本テニスの未来像（右ビジョン）を描き、取り組みます（強化育成本部スタッフのみならず、強化育成に関わる多くの指導者とイメージを共有して進むために）

ビジョン2028

多くの子どもたちが、多くの日本人プレーヤーを知っている
国内開催の国際トーナメントでは、日本人プレーヤーの試合は満席

ビジョン2032

新しいスタープレーヤーがいる
子どもたちが多くの日本人プレーヤーの試合結果に一喜一憂している

強化育成本部は、ビジョン2028・2032の達成に向け、
3つの主要戦略の達成のために取り組むとともに、国内の「普及・育成・強化」を大きく前進するための新しい強化育成体制の構築を目指し、
「富士山プロジェクト」を推進します

ネクストジェンの強化とTop100パスウェイの確立

ネクストジェンチーム（強化メンバー・育成メンバー）を設けるとともに、これまでの「**Top100達成の経験知**」をベースに、**次世代の若手プレーヤー**をサポートし、Top100へのランクインを目指します。また、Top100を目指すための**強化育成パスウェイ**を構築します

応援されるプレーヤーの育成

強化育成本部の理念である「**子どもたちが憧れる日本代表**」を目指し、日本代表プレーヤーとしての「**誇り**」「**敬意**」「**志**」にあふれたプレーヤーの育成と、プレーヤーの「**メンタルヘルス**」はもちろん**幸福感あふれるテニスキャリア**の実現のために「**チャンピオン教育**」に取り組みます

Top50パスウェイ（接続システム）の確立

Top100にランクしたプレーヤーが、「ネクストジェンチーム」を離れ、プレーヤー独自で競技力向上を図る際、プレーヤー自身が次のステップであるTop50、Top20を明確にイメージできるようTop100に入るまでの間に**Top50を見据えた事前教育と強化サポート**を実施します（2024以降を想定）

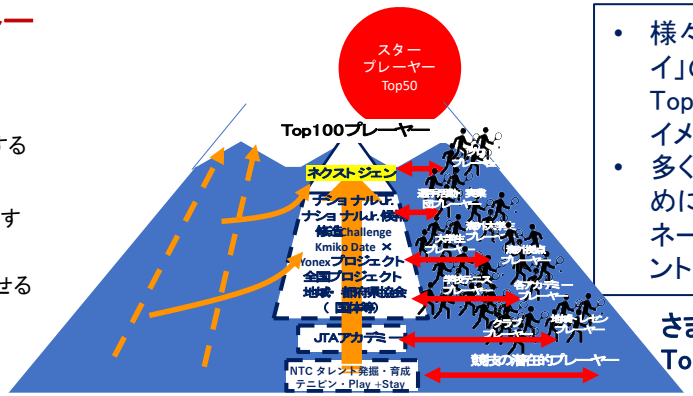
ー富士山プロジェクトー

国際的日本の象徴
日本人の誰からも愛される
誰もが憧れ登頂を目指す
そこには様々なルートが存在する

富士山のように雄大に
テニスの存在感を国内外に示す

これまでよりも裾野を広く、
これまでよりも多くの者が目指せる

様々なルートで
Topを目指せる環境を



- 様々なプロジェクトや事業と連携し「Top100パスウェイ」の普及を進め、多くのプレーヤーや指導者がTop100にランクインするためのパスウェイを明確にイメージできるよう取り組みを実施します
- 多くのプレーヤーのTop100へのチャンスを拡げるためにテニピン、Play & Stayによるテニス脳・コーディネーションの開発など低年齢からの能力開発・タレント発掘に取り組みます

さまざまなカテゴリへのTop100パスウェイの普及
Top100パスウェイに触れるプレーヤーの拡大

夢のある取り組み

- チーム戦（デ杯・BJK杯）での監督起用含め、「多くの人々が見たい夢のあるチーム」構成のもと、世界一を目指します
- テニピンやPlay＆Stayを通して多くの子どもたちに「テニス体験」と「テニスを通じた成長」を提供できる機会の創出に協力します

中長期強化育成プラン
2022―2032

JTA強化育成本部

2022/3/8時点

1. 強化育成本部（強化本部）中長期計画2017-2021の振り返り

2. JTAの理念とJTA中長期戦略プランおよび強化育成本部のミッション

3. これからの強化育成に関わる環境に対する認識

4. 2028・2032のビジョンと中長期強化育成プラン2022の位置付け

5. 中長期強化育成プラン2022

   A） 中期強化育成プラン2022の全体像

   B） 重点戦略：Top100への強化育成システムの確立

   C） 重点戦略：応援されるプレーヤーの育成・輩出

   D） 重点戦略： Top50への接続システムの確立

   E） 重点戦略：強化育成本部運営基盤の強化

   F） 富士山プロジェクト

   G） 選手マップ

2017-2021年の強化育成本部（強化本部）の振り返り

主な成果	男子ナショナル	女子ナショナル	男子ユース（ユニバ含む）	女子ユース（ユニバ含む）	男子ジュニア	女子ジュニア
ランキング	2021 単:2(1)複:1(1)名 2020 単:2(1)複:1(1)名 2019 単:3(1)複:1(1)名 2018 単:3(1)複:1(1)名 2017 単:2(1)複:1(0)名 ※100位以内 (50位以内) 名 単4位(錦織)	2021 単:1(1)複:5(3)名 2020 単:3(1)複:6(2)名 2019 単:2(1)複:6(2)名 2018 単:1(1)複:5(4)名 2017 単:2(0)複:5(5)名 ※100位以内 (50位以内) 名 単1位(大坂)、複5位(青山/柴原)	2021 単:0(0)複:0(0)名 2020 単:1(0)複:0(0)名 2019 単:1(0)複:0(0)名 2018 単:1(1)複:2(0)名 ※400位以内 (200位以内) 名	2021 単:0(0)複:2(1)名 2020 単:1(0)複:2(0)名 2019 単:3(1)複:2(0)名 2018 単:2(1)複:4(2)名 ※400位以内 (200位以内) 名	2021 単:1(0)(0)名 2020 単:3(2)(1)名 2019 単:5(2)(2)名 2018 単:4(2)(0)名 2017 単:4(2)(1)名 100位以内 (50位以内) (20位以内) 名 1位(望月慎)	2021 単:2(0)(0)名 2020 単:2(1)(0)名 2019 単:1(1)(1)名 2018 単:5(3)(0)名 2017 単:4(2)(0)名 100位以内 (50位以内) (20位以内)名
四大大会	全米 単ベスト4(錦織) 全豪 複ベスト4(マクラクラン)	全米 単優勝2回(大坂) 全豪 単優勝2回(大坂) 複ベスト4(加藤/穂積) 全英 複ベスト4(青山/柴原,二宮) 全仏 複準優勝(穂積/二宮)	全英予選 単出場(綿貫)	全豪 単出場(尾崎, 江口) 複出場(二宮, 加藤) 全英 複出場(二宮, 大前) 全米 単出場(江口) 複出場(二宮)他 予選出場	全英Jr 単優勝(望月慎) 全米Jr 複準優勝(堀江/清水悠) 全仏Jr 複優勝(田島)	全仏Jr 複準優勝(内藤/佐藤南)
ツアー大会	単4勝 (錦織, 西岡, ダニエル, 杉田) 複6勝 (マクラクラン, 内山) ファイナル出場 (錦織)	単4勝 (大坂, 日比野) 複16勝 (穂積, 加藤, 二宮, 青山, 柴原, 日比野, 土居) ファイナル出場 (大坂, 青山/柴原)			Jrファイナル出場(望月慎)	
国別対抗戦	ファイナル出場	ワールドグループ2部復帰	デ杯出場(綿貫, 清水悠, 島袋)	BJK杯出場(佐藤久)	Jrデ杯優勝 ワールドJr3位 デ杯出場(望月慎)	Jrフェド杯・JrBJK杯準優勝
総合競技大会	五輪出場 単:4 複:4名	五輪出場 単:3 複:4名	アジア 複銅 (島袋/上杉, 伊藤雄/綿貫) ユニバ 複銅 (伊藤雄/島袋)	アジア 複銅(加藤/二宮) ユニバ 単金(佐藤南) 団体金、複銅(森崎/佐藤南)		ユース五輪 複銀(内藤/佐藤南)

プラン概要

方針：世界一の(1)コーチ・スタッフ(2)強化プログラム(3)チームワーク

- **トップのツアーレベルで通用するコーチ・スタッフの配置**：外国人コーチ・スタッフの招聘、ツアーの中でのコーチングスキルの向上、情報共有環境の構築
- **個別サポートの重点化**：有効サポートの探索
- **高度なパフォーマンス分析のシステム化**
- **チームスピリットの拡大**：チーム(プレーヤー・コーチ・スタッフ)内のチームワークスピリットを協会組織内へ発展

達成できたこと

- 統一された強化の方向性の中で活動
- コーチ・スタッフ、各チーム(男女等)の連携した活動
- グランドスラム優勝者、世界ランキング1位選手の輩出
- グランドスラム上位進出者の輩出
- 100以内ランキング選手の複数輩出と維持
- 過去最大のオリンピック出場者
- 外国人コーチ, ダブルスコーチの配置による強化およびコーチングメソッドの教授
- 個別サポートによる科学的サポートの重要項目の抽出(グランドスラム栄養サポート、暑熱下コンディショニングサポート、動作解析および体力測定等)
- Tennis Stats導入による戦術支援
- U22遠征によるシニアツアーへのトラジションサポートとプレーヤーの教育

今後の課題

【新しい強化育成体制の構築】
- 2018年以降トップ100に新規プレーヤーの不在(女子)
- 若手プレーヤーへの注力
- ジュニア期からの教育の推進(JTAアカデミーの発足)
- 代表への想いの醸成、コミットメントの強化、プレーヤーとのコミュニケーション強化

【五輪でのメダル獲得】
- 五輪出場選手に対する個別サポートの充実
- トッププレーヤー(例：ジョコビッチ)の分析

【持続可能な組織力の構築】
- コンプライアンス・ガバナンス強化
- コーチ・スタッフの強化予算意識、プレーヤーの強化プログラムへの理解度の向上
- サポート体制充実の為のスポンサー獲得

JTAの理念とJTA中長期戦略プラン

【理念】

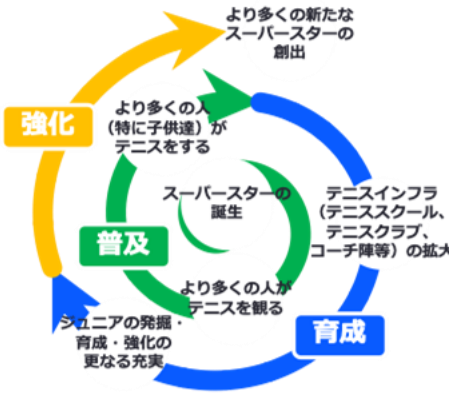
わたしたちは、テニスを通じて人と人、国と国とをつなぎ、その素晴らしさを伝え、
すべての人が健やかで幸福な人生を享受できるような、多様性と調和のある社会の実現に貢献します

【ビジョン】

・すべての人の豊かなスポーツライフに寄与します
・国内外の人々や組織と協力し、テニスの発展に尽力します
・世界レベルの選手を一人でも多く輩出し、夢と感動を届けます
・健全で安定した協会運営を行います
・公正で差別がなく、ジェンダー平等に基づき、誰もが活躍できる組織を目指します

【行動指針】

・フェア　常に公平、公正、誠実な姿勢を貫きます
・グローバル　世界的視野を持って行動し、海外の関係者と積極的に交流します
・チームワーク　活発なコミュニケーションをはかり、互いを尊重し、力を合わせて前進します
・共創　ステークホルダーの声に耳を傾け、共にテニスの未来を築きます
・挑戦　歴史と伝統を重んじつつ、変化を恐れずチャレンジし続けます
・感謝　いつも感謝を忘れず、テニスの持つ力を信じ、愛し、伝え続けます



中長期戦略プラン－10年後に期待すること

- 錦織選手に続くスーパースターが続々と登場。男女それぞれグローバルTop100に10人、Top50に5人、Top20に1～2人の日本人選手が名を連ねる. . .
- グランドスラムに次ぐ世界トップレベルの大型国際大会が日本で毎年行われ、将来のフェデラー、ナダル級のグローバルトップ選手らが毎年来日。そのプレーを生で観戦し、感動をもらう. . .
- 我が国におけるテニス環境が大幅に改善され、生涯スポーツであるテニスを「見る」「する」「関わる」テニス人口が大幅に増加. . .
- 特に子供達がテニスを小学生時代から、身近で楽しく簡単でラリーも続くスポーツとして認識し、それを通じて礼儀・マナー・人間力を養う. . .
- その結果、長年減少傾向にあったテニスクラブ、テニススクールの数も反転. . .シニア層にも健康にいいスポーツとしてテニスが認識され普及. . .
- コーチ・指導者・審判・その他テニスに関わるテニス関係者、またその職業に対する社会的リスペクトが格段に向上し、雇用が安定. . .

COPYRIGHT(C) ALL RIGHTS RESERVED BY JAPAN TENNIS ASSOCIATION

中長期戦略プラン－目玉施策

1. 大型国際大会を日本に誘致。生で観るスポーツとしての感動を広げる
2. 教育指導要領改訂をきっかけに、小学校でテニスに触れる機会をつくる
3. 硬式テニス中体連加盟を機に、全国の中学校に硬式テニス部を出来るだけ多くつくる
4. Play & Stayの更なる推進
5. 固定資産税・相続税対策を打ち出し、テニスクラブ、テニススクールが広がる環境づくりをし、テニス・インフラの再構築を後押しする
6. トレセン構想により、レベル別のトレセンを国内に戦略的に配置。次なる錦織、将来のスーパースター創出のパイプラインを太くする
7. 同時に、エリート・コーチ・アカデミーをこのトレセン構想に組み込み、テニスコーチの質・量を飛躍的に改善させる
8. 世界を目指すジュニア選手がポイントをより獲得しやすいように、国内開催の世界の懸け橋となる国際大会を充実させる

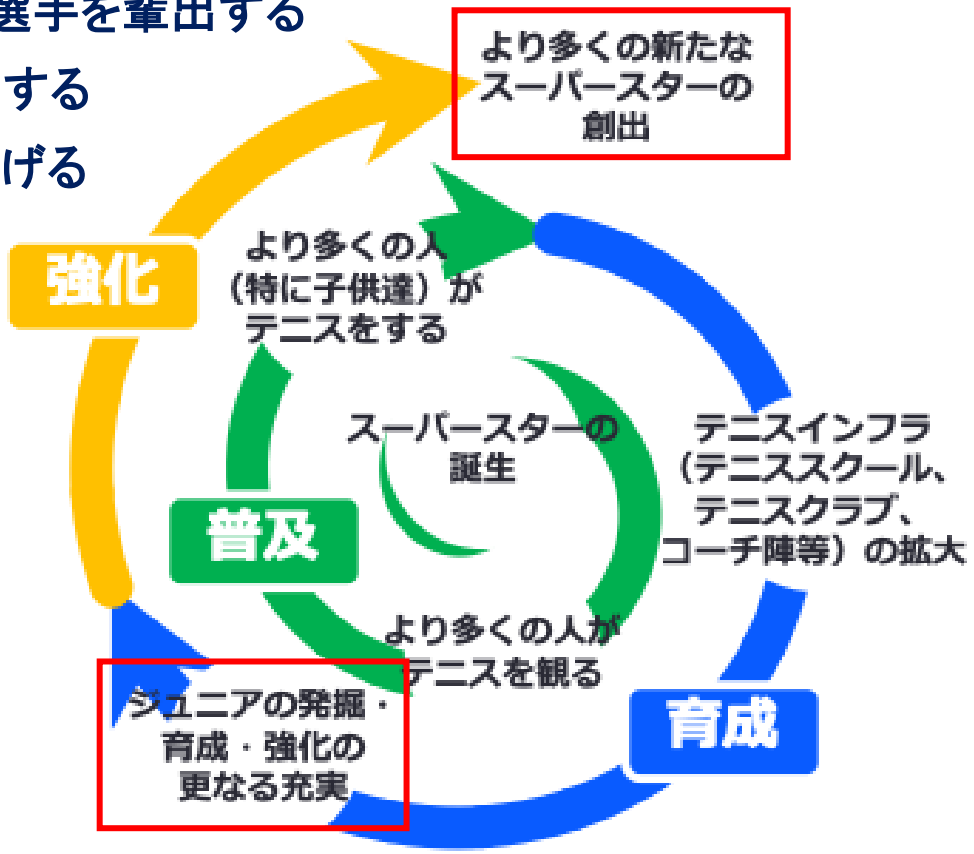
COPYRIGHT(C) ALL RIGHTS RESERVED BY JAPAN TENNIS ASSOCIATION

中長期戦略における強化育成本部のミッション

【ミッション】

普及・育成・強化のつながりの構築

- スタープレーヤーを連続的に輩出する
- 恒久的に世界ランキングTop100にランクする選手を輩出する
- 世界ランキングTop50にランクする選手を輩出する
- 応援される日本代表（デ杯・BJK杯）をつくり上げる
- 上記につながる育成環境の構築



強化育成を取り巻く環境と社会の認識（ここ数年の変化の理解）

コロナ禍・東京五輪によるアスリートを取り巻く社会環境の変化

- 急速なデジタル化とプレーヤーの孤立化
- メディアによるアスリートの幻影の巨大化とプレッシャーの増大
- 上記によるメンタルヘルス問題の増大

トップテニスプレーヤー状況の変化

- 人気選手の高年齢化
- トッププレーヤーの自立化（経済的、Web露出や大会運営、育成事業、セルフマネジメント等）
- プレーヤーのオピニオンリーダー化

次世代プレーヤー状況の変化

- コロナ禍による国内開催の国際大会の中止と海外遠征の激減（ポイント獲得機会と世界基準を体感する機会の減）
- ジュニアプレーヤーのスキルレベルの向上による競争の激化

テニス普及施策の意識の高まり

- 小学校体育でのテニピンの実施機会の増加と中体連加盟に向けた取り組みによる青少年テニス実施者の増加の期待

コロナ禍によるツアー環境の変化

- 国内開催の国際テニストーナメントの中止
- 観客制限のあるテニストーナメント
- 海外遠征期間の長期化
- 出場トーナメント選定の困難化
- ジュニアのITFトーナメントの出場頻度の激減

強化育成の支援環境の変化

- コロナ禍での収益事業縮小
- 東京五輪終了に伴う公的強化支援の変化

人生100年時代

- 更なる少子高齢化
- SDGs達成の取り組み
- Society 5.0(AI・ロボット・サイバー空間との融合社会等)
- 健康増進のためのスポーツの重要化
- 人生100年時代を見据えたアスリートのキャリア形成とライフスキルの重要化
- アスリートのwellbeing（幸福）の重要化

Sport in Life

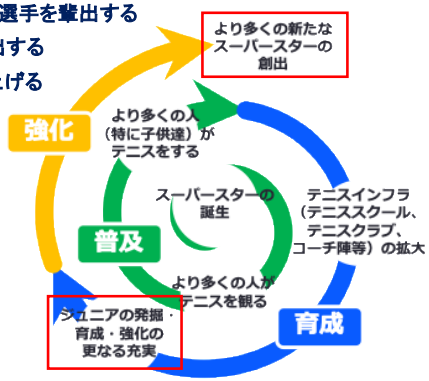
- スポーツの多様化（Fun, Wellness, コラボ）
- Aiによるスポーツのデジタルサポートの急速な発展と拡大

中長期戦略における強化育成本部のミッション

【ミッション】

普及・育成・強化のつながりの構築

- **スタープレーヤーを連続的に輩出する**
- **恒久的に世界ランキングTop100にランクする選手を輩出する**
- **世界ランキングTop50にランクする選手を輩出する**
- **応援される日本代表（デ杯・BJK杯）をつくり上げる**
- **上記につながる育成環境の構築**



ミッション

新しいビジョン

2017-21プランの振り返り

強化育成を取り巻く環境と社会の認識（ここ数年の変化の理解）

コロナ禍・東京五輪によるアスリートを取り巻く社会環境の変化

- 急速なデジタル化とプレーヤーの孤立化
- メディアによるアスリートの幻影の巨大化とプレッシャーの増大
- 上記によるメンタルヘルス問題の増大

トップテニスプレーヤー状況の変化

- 人気選手の高年齢化
- トッププレーヤーの自立化（経済的、Web露出や大会運営、育成事業、セルフマネジメント等）
- プレーヤーのオピニオンリーダー化

次世代プレーヤー状況の変化

- コロナ禍による国内開催の国際大会の中止と海外遠征の激減（ポイント獲得機会と世界基準を体感する機会の減）
- ジュニアプレーヤーのスキルレベルの向上による競争の激化

テニス普及施策の意識の高まり

- 小学校体育でのテニピンの実施機会の増加と中体連加盟に向けた取り組みによる青少年テニス実施者の増加の期待

コロナ禍によるツアー環境の変化

- 国内開催の国際テニストーナメントの中止
- 観客制限のあるテニストーナメント
- 海外遠征期間の長期化
- 出場トーナメント選定の困難化
- ジュニアのITFトーナメントの出場頻度の激減

強化育成の支援環境の変化

- コロナ禍での収益事業縮小
- 東京五輪終了に伴う公的強化支援の変化

人生100年時代

- 更なる少子高齢化
- SDGs達成の取り組み
- Society 5.0（AI・ロボット・サイバー空間との融合社会等）
- 健康増進のためのスポーツの重要化
- 人生100年時代を見据えたアスリートのキャリア形成とライフスキルの重要化
- アスリートのwellbeing（幸福）の重要化

Sport in Life

- スポーツの多様化（Fun, Wellness, コラボ）
- AIによるスポーツのデジタルサポートの急速な発展と拡大

社会・スポーツ・テニス環境の変化

2017-2021年の強化育成本部（強化本部）の振り返り

主な成果

	男子ナショナル	女子ナショナル	男子ユース（ユニバ含む）	女子ユース（ユニバ含む）	男子ジュニア	女子ジュニア
ランキング	2021 単:2（1）複:1（1）名 2020 単:2（1）複:1（1）名 2019 単:3（1）複:1（1）名 2018 単:3（1）複:1（1）名 2017 単:2（1）複:1（0）名 ※100位以内（50位以内）人数	2021 単:1（1）複:5（3）名 2020 単:3（1）複:6（2）名 2019 単:2（1）複:6（2）名 2018 単:1（1）複:5（4）名 2017 単:2（0）複:5（5）名 ※100位以内（50位以内）人数 単1位（大坂）、複5位（青山/柴原）	2021 単:0（0）複:0（0）名 2020 単:1（0）複:0（0）名 2019 単:1（0）複:0（0）名 2018 単:1（1）複:2（0）名 ※400位以内（200位以内）人数	2021 単:0（0）複:2（1）名 2020 単:1（0）複:2（0）名 2019 単:3（1）複:2（0）名 2018 単:2（1）複:4（2）名 ※400位以内（200位以内）人数	2021 単:1(0)(0)名 2020 単:3(2)(1)名 2019 単:5(2)(2)名 2018 単:4(2)(0)名 2017 単:4(2)(1)名 100位以内（50位以内）(20位以内) 人数 1位（望月慎）	2021 単:2(0)(0)名 2020 単:2(1)(0)名 2019 単:1(1)(1)名 2018 単:5(3)(0)名 2017 単:4(2)(0)名 100位以内（50位以内）(20位以内)人数
四大大会	全米 単ベスト4（錦織） 全豪 複ベスト4（マクラクラン）	全米 単優勝2回（大坂） 全豪 単優勝2回（大坂） 複ベスト4（加藤/穂積） ウィン 複ベスト4（青山/柴原、二宮） 全仏、準準優勝（穂積/二宮）	全豪 単予選（綿貫） 全仏 単予選（綿貫） ウィン 単予選（綿貫） 全米 単予選（綿貫）	全豪 単予選（清水綾、村松、内藤） 全仏 単予選（清水綾、村松、内藤） ウィン 単予選（清水綾） 全米 単予選（清水綾）	ウィン jr 単優勝（望月慎） 全米jr 複準優勝（船江/清水悠） 全仏jr 複優勝（田島）	全豪jr 複優勝（川口） 全仏jr 複準優勝（内藤/佐藤南）
ツアー大会	単4勝（錦織、西岡、ダニエル、杉田） 複6勝（マクラクラン、内山） ファイナル出場（錦織）	単4勝（大坂、日比野） 複14勝（穂積、二宮、青山、柴原、日比野、土居） ファイナル出場（大坂、青山/柴原）			ファイナル出場（望月慎）	
国別対抗戦	ファイナル出場	ワールドグループ2部昇格	デ杯出場（綿貫）	BJK杯出場（佐藤久）	Jrデ杯優勝 ワールドJr3位	Jr BJK杯準優勝
総合競技大会	五輪出場 単:4 複:4名	五輪出場 単:3 複:4名	アジア 複則（馬袋/上杉、伊藤建/綿貫） ユニバ 複則（伊藤建/島袋）	アジア 複則（加藤/二宮） ユニバ 単金（佐藤南） ユニバ 団体金、複則（森崎/佐藤南）		ユース五輪 複則（内藤/佐藤南）

プラン概要

方針：世界一の（1）コーチ・スタッフ（2）強化プログラム（3）チームワーク

- トップのツアーレベルで通用するコーチ・スタッフの配置：外国人コーチ・スタッフの招聘、ツアーの中でのコーチングスキルの向上、情報共有環境の構築
- 個別サポートの重点化：有効サポートの探索
- 高度なパフォーマンス分析のシステム化
- チームスピリットの拡大：チーム（プレーヤー・コーチ・スタッフ）内のチームワークスピリットを協会組織内へ発展

達成できたこと

- 統一された強化の方向性の中で活動
- コーチ・スタッフ、各チーム（男女等）の連携した活動
- グランドスラム優勝者、世界ランキング1位選手の輩出
- グランドスラム上位進出者の輩出
- 100以内ランキング選手の複数輩出と維持
- 過去最大のオリンピック出場者
- 外国人コーチ、ダブルスコーチの配置による強化およびコーチングメソッドの教授
- 個別サポートによる科学的サポートの重要項目の抽出（グランドスラム栄養サポート、暑熱下コンディショニングサポート、動作解析および体力測定等）
- Tennis Stats導入による戦術支援
- U22遠征によるシニアツアーへのトランジションサポートとプレーヤーの教育

今後の課題

【新しい強化育成体制の構築】
- 2018年以降トップ100に新規プレーヤーの不在（女子）
- 若手プレーヤーへの注力
- ジュニア期からの教育の推進（JTAアカデミーの発足）
- 代表への想いの醸成、コミットメントの強化、プレーヤーとのコミュニケーション強化

【五輪でのメダル獲得】
- 五輪出場選手に対する個別サポートの充実
- トッププレーヤー（例：ジョコビッチ）の分析

【持続可能な組織力の構築】
- コンプライアンス・ガバナンス強化
- コーチ・スタッフの強化予算意識、プレーヤーの強化プログラムへの理解度の向上
- サポート体制充実の為のスポンサー獲得

強化育成本部が2028年と2032年に目指す姿

2028のビジョン
多くの子どもたちが、多くの日本人プレーヤーを知っている
国内開催の国際トーナメントでは、日本人プレーヤーの試合は満席

2032のビジョン
新しいスタープレーヤーがいる
子どもたちが多くの日本人プレーヤーの試合結果に一喜一憂している

強化育成本部の理念
子どもたちが憧れる日本代表
・日本人プレーヤーとしての「誇り」「敬意」「志」にあふれたプレーヤーの育成

取り組み目標

次世代プレーヤーへ注力し
- ・恒久的にTop100にランクできるようプレーヤーを育成・強化します
- ・応援されるプレーヤーを育成します
- ・Top100からTop50へつながる（接続できる）環境を構築します

上記につながるプレーヤーが増える環境構築を目指します

中期強化育成プラン2022の位置付け

子どもたちが憧れる日本を代表するプレーヤーの輩出

JTA中長期戦略プラン 2024 → 2028 → 2032

中期強化育成プラン2022

【2028ビジョン達成に向けて】
【最優先課題】
Top100パスウェイによるサポート
：ターゲットプレーヤーがTop100にランクできるよう強化育成サポート

- 強化ターゲットプレーヤーの明確化
- 育成ターゲットプレーヤーの選定と順次拡大
- コーチ・スタッフの充実と強化育成本部の組織力の向上
- Top100達成の経験知の整理と強化育成への活用
- Top50パスウェイ（Top50への接続のためのサポート内容）（チャンピオン教育等）の探索

【2032ビジョン達成に向けて】
→Top100プレーヤーのスタープレーヤー（Top50）への接続
→Top100プレーヤー輩出の継続

- Top100達成までの間にスタープレーヤー（Top50）を見据えた強化育成
- 「Top50パスウェイ」の検討
- 「Top100パスウェイ」の再精査

スタープレーヤー（Top50）

Top100プレーヤーへの強化育成

応援されるプレーヤーの育成

中長期強化育成プラン2022の全体像

VISON 2028 – 2032

戦略目標

- 次世代プレーヤーへの注力転換
- 恒久的Top100輩出とTop50に接続できるシステムの実現
- 応援されるプレーヤー育成の実現

方針

「世界一のコーチ・スタッフ」「世界一の強化プログラム」「世界一のチームワーク」

重点戦略

Top100パスウェイの確立

- これまでのTop100達成の経験知の整理と共有
- ターゲットプレーヤーの明確化と拡大
- 強化育成計画・内容の明確化と展開
- 強化育成環境の構築（練習コートの充実、国内トーナメントの整備）
- 強化育成コーチ・スタッフの充実
- 強化育成システムのPDCA

応援されるプレーヤーの育成

- 夢のある取り組み
- メディア露出の創出
- チャンピオン教育のプログラム確立（教育内容の選定と教育方法の検討）
- 教育スタッフ選定と配置
- チャンピオン教育プログラムのPDCA

Top50パスウェイ（接続システム）の確立

- 「Top50へのパスウェイ」の検討
- Top100からTop50へのパスウェイの検討
- 個別サポート内容の検討
- デ杯、BKJ杯、五輪サポート内容の検討

強化育成本部運営基盤の強化

- 強化育成本部のガバナンスと組織評価体制の強化
- 財務の拡大に向けた、多方面からの支援獲得
- 人財活用、人材強化と育成（ダイバーシティ＆インクルージョン含む）
- 計画的な取り組みの推進強化

プロジェクト

富士山プロジェクト

重点戦略の達成と「普及・育成・強化」を前進するための
新しい強化育成体制の構築を目指し、
富士山プロジェクトを推進する

富士山プロジェクトの取り組み
ー世界のテニスへの憧れを多くの人にとってチャンスあるものにー

【日本のテニスの現状】
- グローバルな活躍と多くのコーチの努力によるTop100プレーヤーの活躍
- Top100プレーヤーは増加したものの、そのパスウェイのイメージを認知している者が少ない

【喫緊の課題】
- 現在の流れの要因を明確にし、確固たる強化育成計画のもと、新たなスタープレーヤーを輩出できる環境を構築すること
- 強化育成本部スタッフおよび多くの国内指導者がプレーヤーのパスウェイを**明確に**イメージできるような情報の普及

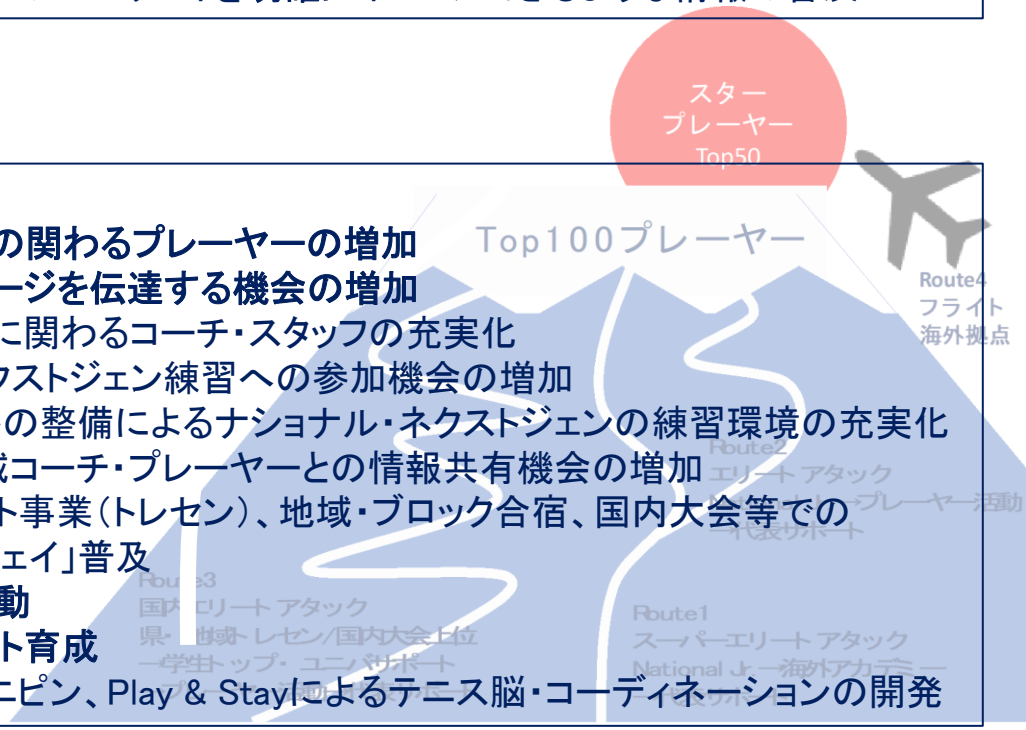
【具体的な取り組み目標】
- **Top100へのパスウェイの具現化**（明確に見える化）
- Top100パスウェイのイメージを持つプレーヤー・コーチの**増加**
- Top100を目指すチャンスを拡げるための**低年齢からの能力開発・タレント発掘**
- 上記による**裾野が広がる**取り組み

【取り組み内容】
- **強化育成本部の関わるプレーヤーの増加**
- **パスウェイイメージを伝達する機会の増加**

■強化育成本部に関わるコーチ・スタッフの充実化
■ナショナル・ネクストジェン練習への参加機会の増加
■地域主要コートの整備によるナショナル・ネクストジェンの練習環境の充実化とその際の地域コーチ・プレーヤーとの情報共有機会の増加
■全国プロジェクト事業（トレセン）、地域・ブロック合宿、国内大会等での「Top100パスウェイ」普及

- **タレント発掘活動**
- **NTCでのタレント育成**

■低年齢へのテニピン、Play & Stayによるテニス脳・コーディネーションの開発



Keyword：「若手の強化育成」「Top100パスウェイの普及」「低年齢からの教育・能力開発」「裾野の広い強化育成」

重点戦略：Top100パスウェイの確立
ーネクストジェンチームの設置による若手プレーヤーへの注力ー

強化ターゲットプレーヤーの明確化

- 特に有望な次世代プレーヤーを**「ネクストジェンチーム強化メンバー」**とし、Top100へのランクインを目指す。
- プレーヤーの選定基準の策定と適宜見直し

「Top100パスウェイ」の整理と共有

- これまでTop100にランクしたプレーヤーのサポートに関わったコーチ・スタッフのキャリアからTop100に求められるプレーヤー要件、コーチング要件、サポート要件を抽出・共有し、強化育成システム全体のレベルアップを図る

強化育成コーチ・スタッフの充実

- 持続可能な強化育成システムの構築および稼働のためのコーチ、ドクター、フィジカルコーチ、ケアトレーナー、メンタルコーチ、栄養士、コーディネーター等のスタッフの充実

重点戦略事業の評価

- 強化育成システムおよびその稼働について、客観的また妥当性ある評価を用いて、PDCAサイクルを実施する

育成ターゲットプレーヤーの順次拡大

- 左記に準ずるプレーヤー（Jr.プレーヤー含む）を**「ネクストジェンチーム育成メンバー」**とし、強化枠に準じた育成プログラムによる競技力向上を図る。
- 外部からの強化費の獲得状況に応じて育成メンバーの拡大を図る

Top100パスウェイプログラムの展開

- 左記を踏まえた強化育成計画およびプログラムの立案と遂行
- 強化枠：コーチ、ドクター、フィジカルコーチ、ケアトレーナー、メンタルコーチ、栄養士、分析スタッフ等によるサポート、トラベリング、強化拠点（第一生命・NTC）における活動サポート
- 育成枠：強化枠プレーヤーに準じたサポート。おもに強化拠点（ 第一生命・NTC）における活動サポート。
- メンタルヘルスサポートおよび心理的スキルの教育
- 地域の環境充実に向けた取り組みへの協力（ハードコート、インドア施設）
- よりTop100につながる国内トーナメント整備への協力

KPI：①ターゲットプレーヤーのTop100へのランク人数　②「Top100パスウェイ」の共有状況
（評価タイミング：2年毎、年間最終ランキングの利用、レポートの質的評価）

重点戦略：応援されるプレーヤーの育成
ーテニスが価値あるスポーツとして認知されるためにー

2028のビジョン
多くの子どもたちが、多くの日本人プレーヤーを知っている
国内開催の国際トーナメントでは、日本人プレーヤーの試合は満席

2032のビジョン
新しいスタープレーヤーがいる
子どもたちが多くの日本人プレーヤーの試合結果に一喜一憂している

KPI：人気度・露出面に関して
① 人気職業・スポーツランキング（笹川財団等）
② 国内大会におけるターゲットプレーヤーの観戦者数人数（案）
③ ターゲットプレーヤーのSNS等のフォロワー数や再生回数（案）
（評価タイミング：2年毎）

KPI：教育面に関して
④ ターゲットプレーヤーの内面性のチェック（レジリエンス、成熟度、社会的スキル、セルフマネジメント力等）やレポート
⑤ コーチ・スタッフの評価レポート（質的・量的）
（評価タイミング：2年毎）

応援されるプレーヤー

プレーヤーの露出

- **夢のある取り組み**の実施（多くのファンの興味関心の拡大：詳細次ページ）
- 広報との連携のほか、独自の広報活動の展開
- TVや新聞等のマスメディアのほか、Webでの展開
- 結果だけでなく**プレーヤーの優れた内面性**が伝えられるものに（子どもが憧れる、保護者が愛着がもてる・教育のロールモデルとしやすい）

チャンピオン教育のプログラムの確立

- **日本を代表とするプレーヤーとしての素養（誇り、敬意、志）**
- **日本代表への想いの醸成**
- **人間力**および**人格形成に関わる教育**（若手は特に自我形成期であるため、テニス社会と一般社会、プロプレーヤーと1人の人間としてのバランス）、**メンタルヘルス**や**Well-being**に関わる**心理的スキル教育や**メディアトレーニング
- **スポーツインテリジェンス**（ゲームデータ、コンディショニング等）に関わる競技力向上に関わる側面の教育
- キャリア教育、データ・サイエンス（ICTを使って生活する社会Society5.0への適応）に関する教育

夢のある取り組み

- チーム戦（デ杯・BJK杯）での監督起用含め、「多くの人々が見たい夢のあるチーム」構成のもと、世界一を目指す
- テニピンやPlay＋Stayを通して多くの子どもたちに「テニス体験」と「テニスを通じた成長」を提供できる機会の創出に協力する
- ナショナルメンバーが、全日本選手権に出場することや国内各地のコートでプレーするなど、多くのファンと交流する機会を創出する

多くの人々に
「テニスのある人生と社会」
を提供する

Tennis in Life

重点戦略：Top50パスウェイ（接続システム）の確立
ー新しいスタープレーヤーを輩出するためにー

2028のビジョン
多くの子どもたちが、多くの日本人プレーヤーを知っている
国内開催の国際トーナメントでは、日本人プレーヤーの試合は満席

2032のビジョン
新しいスタープレーヤーがいる
子どもたちが多くの日本人プレーヤーの試合結果に一喜一憂している

KPI：①ターゲットプレーヤーのTop50へのランク人数、②「Top50パスウェイ」の共有状況、③プレーヤーの目標設定シートの評価
（評価タイミング：2028以降、2年毎）

Top50への接続とは？

- Top100にランクしたプレーヤーが、「ネクストジェンチーム」を離れ、プレーヤー独自で競技力向上を図る際、スムーズに次のステップであるTop50、Top20を目指せるよう、**Top100に入るまでの間にTop50を見据えた強化および教育（事前教育）**サポートを実行する（2024以降を想定）
- プレーヤーが次のステップのイメージが明確になるよう事前教育・強化の実施

「Top50パスウェイ」の整理と共有

- これまでTop50にランクしたプレーヤーのサポートに関わったコーチ・スタッフ（国内外問わず）のキャリアからTop50に求められるプレーヤー要件、コーチング要件、サポート要件を抽出・共有し、強化および教育内容について検討する

Top50パスウェイとチャンピオン教育の展開

- 整理された「Top50パスウェイ」を活用した強化育成およびプログラムの立案と実施
- チャンピオン教育の実施（前出）

重点戦略：強化育成本部運営基盤の強化
ー持続可能な強化育成体制構築のためにー

人財活用・人材強化と育成
ダイバーシティ＆インクルージョン

- 多様なコーチ・スタッフの成長と活躍
- テニス界はもちろん様々な分野から人材登用や協力
- 女性の人材登用
- 多様性ある人材登用
- 学び続けるコーチ・スタッフ（学習機会への財的投資）
- コーチの担当所在の明確化

強化育成本部のガバナンスと組織評価体制の強化

- ビジョン、中長期強化育成プラン、富士山プロジェクトの共有
- 富士山プロジェクト（各重点戦略）に見合ったガバナンスコード、財務規律の策定
  「コーチ・スタッフ」、「選定プレーヤー」、「各種戦略予算」他
- 組織・体制・プロジェクトの着実なモニタリング（客観的妥当的評価指標の策定と遂行）
- コンプライアンス教育

計画的なプラン達成に向けた取り組みの強化

- 各重点戦略達成に向けたアクションプランの年間計画とプラン担当者の明確化
- 「マイルストーン」「SMART」等を活用した目標設定
- 各アクションプランの遂行状況のモニタリングとPDCAの着実な遂行

予算拡大に向けた、多方面からの支援獲得

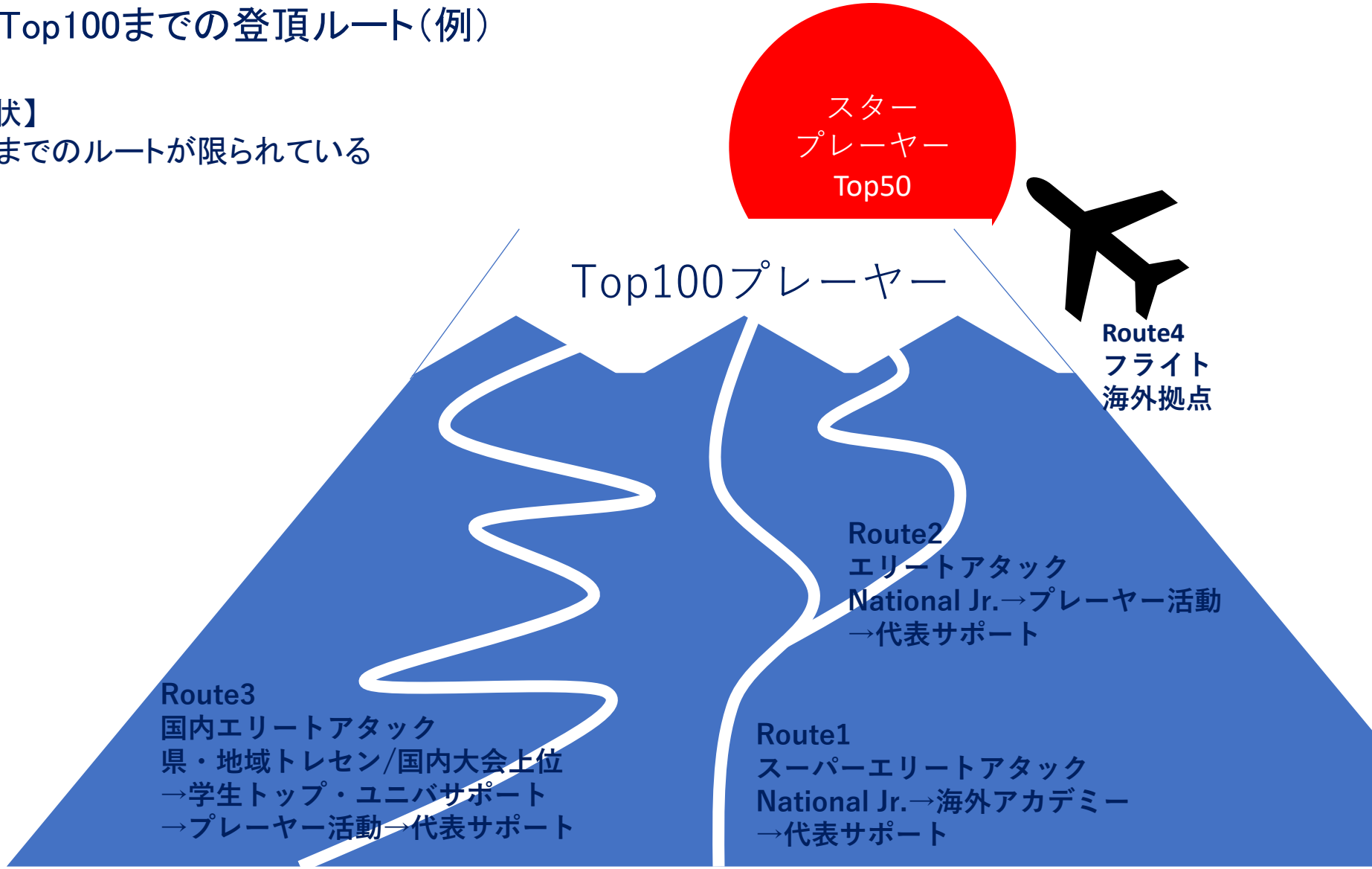
- 「ビジョン」と「富士山プロジェクト」への共感スポンサーの獲得
- 各種補助金の着実な獲得

KPI：①コーチ・スタッフの評価レポート（質的・量的）、②外部評価（他組織、プレーヤー、他本部）レポート（質的・量的）、③予算状況
（評価タイミング：2年毎）

富士山プロジェクト

現在のTop100までの登頂ルート（例）

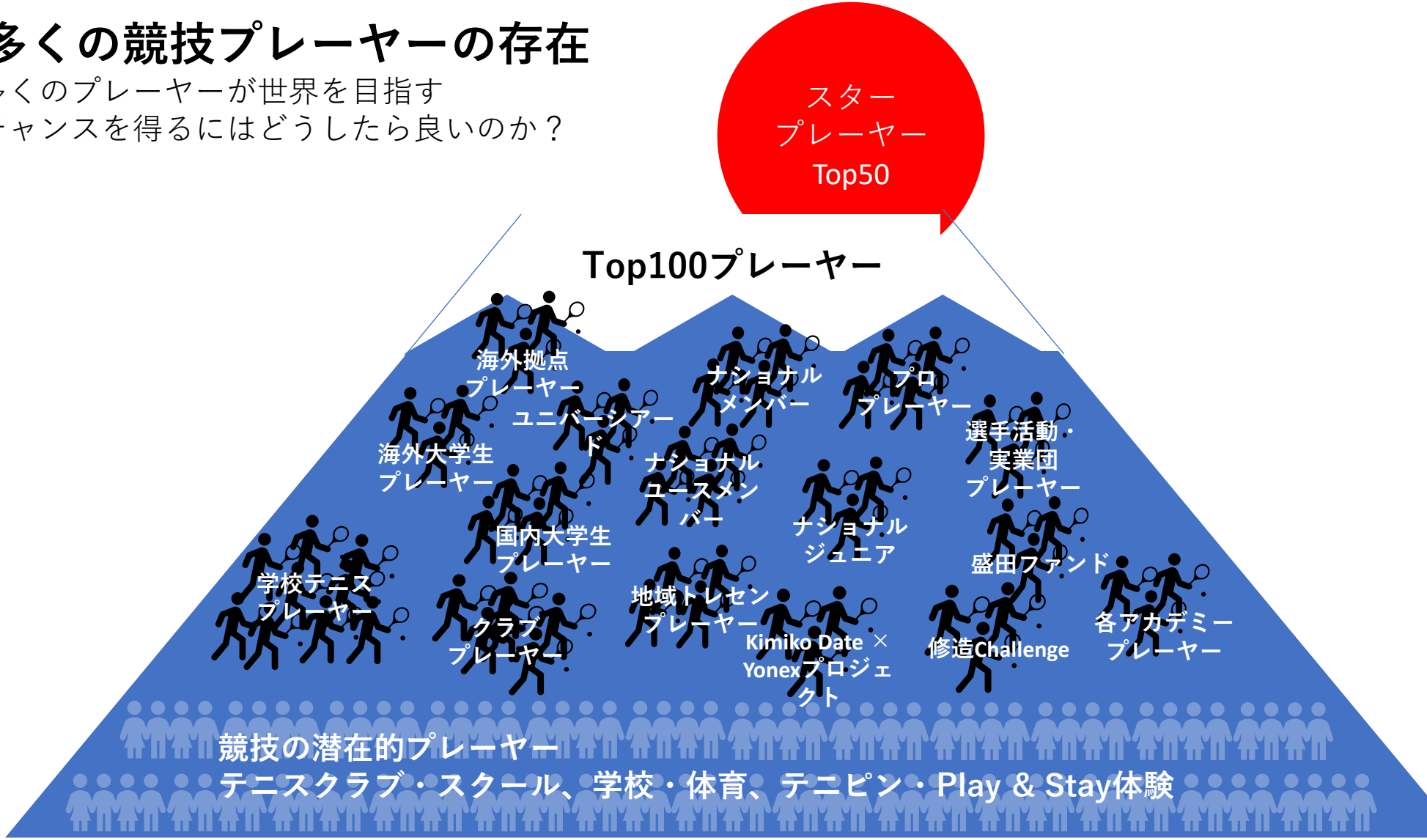
【国内現状】
・Top100までのルートが限られている



富士山プロジェクト

- **多くの競技プレーヤーの存在**

→多くのプレーヤーが世界を目指す
　チャンスを得るにはどうしたら良いのか？



富士山プロジェクト

ADVANTAGE JAPAN

- さまざまなカテゴリへのTop100パスウェイの普及
- Top100パスウェイに触れるプレーヤーの拡大

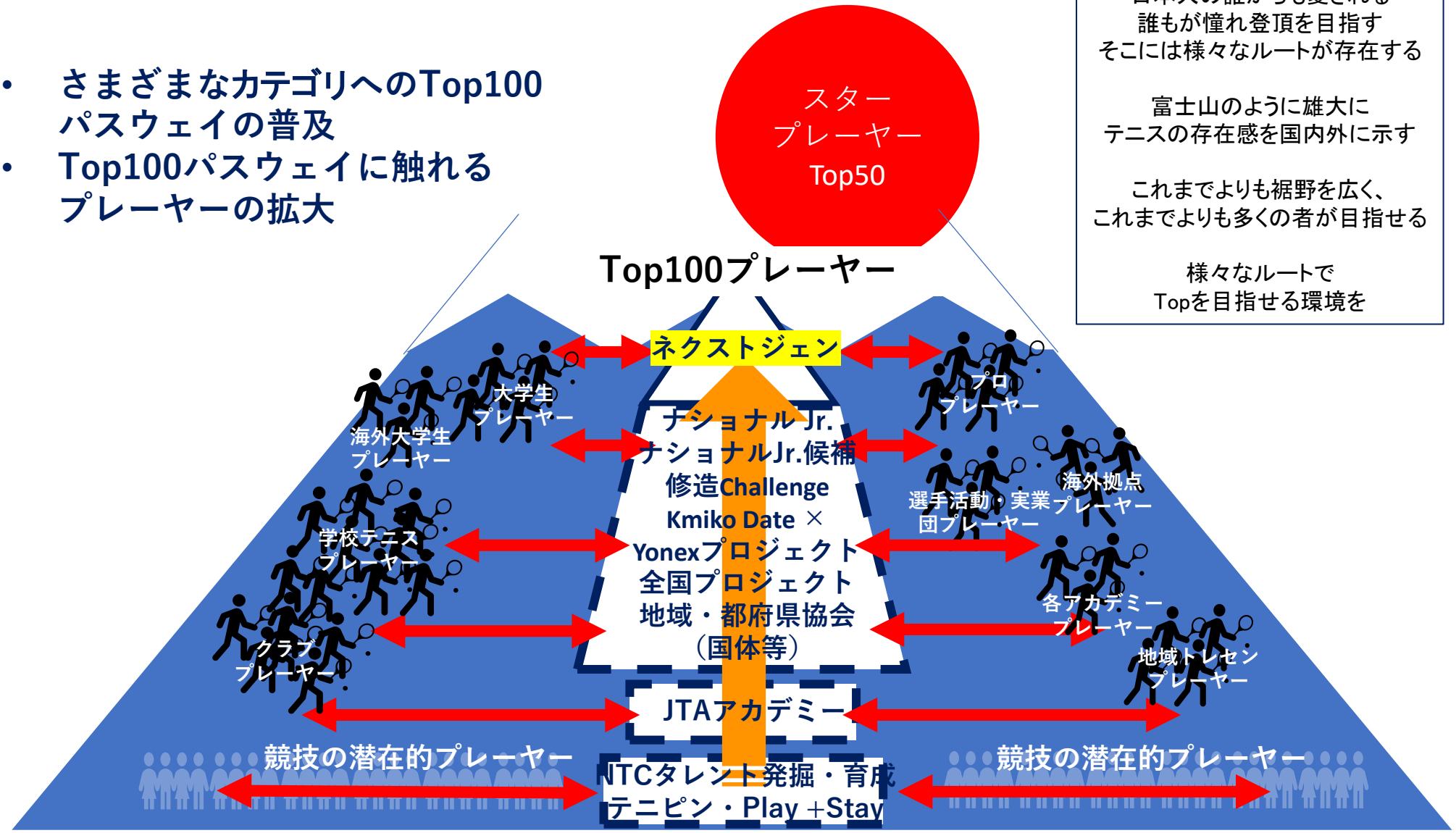
ー富士山プロジェクトー

国際的日本の象徴
日本人の誰からも愛される
誰もが憧れ登頂を目指す
そこには様々なルートが存在する

富士山のように雄大に
テニスの存在感を国内外に示す

これまでよりも裾野を広く、
これまでよりも多くの者が目指せる

様々なルートで
Topを目指せる環境を

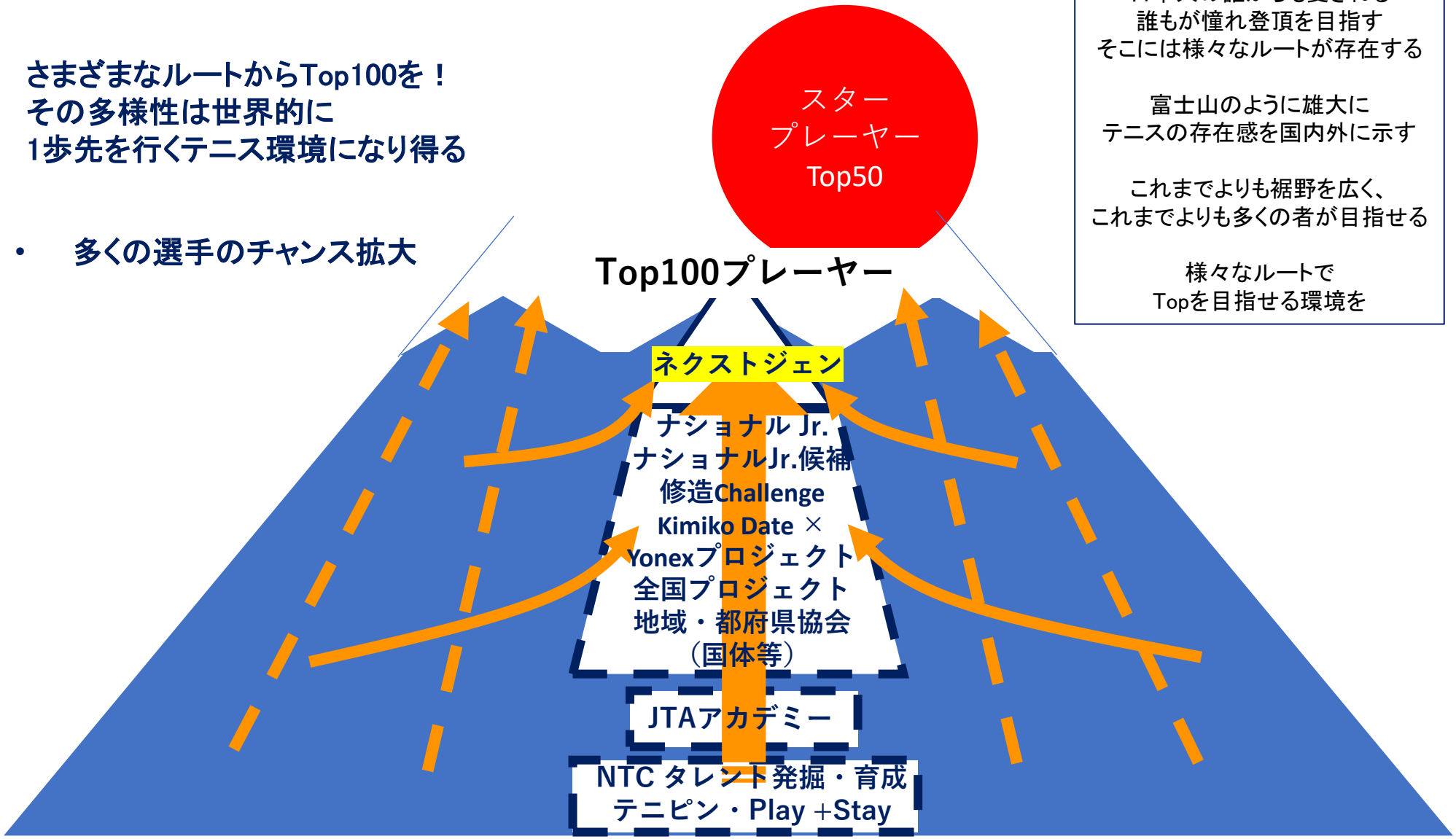


富士山プロジェクト

ADVANTAGE JAPAN

さまざまなルートからTop100を！
その多様性は世界的に
1歩先を行くテニス環境になり得る

- **多くの選手のチャンス拡大**



ー富士山プロジェクトー

国際的日本の象徴
日本人の誰からも愛される
誰もが憧れ登頂を目指す
そこには様々なルートが存在する

富士山のように雄大に
テニスの存在感を国内外に示す

これまでよりも裾野を広く、
これまでよりも多くの者が目指せる

様々なルートで
Topを目指せる環境を

国内男子選手リスト　2021年ランキングと推移目標（男子）

10月4日付Ranking

ATPランク　年　2021　2022　2023　2024　2025　2026　2027　2028　2032

4～8位以内

32位

60位

100位

132位

150位

200位

230位

500位

600位

750位

TOKYO 2020

PARIS 2024　PARIS 2024

20th Asian Games Aichi-Nagoya 2026

Brisbane 2032

錦織圭89年53位

マクラクラン勉92年D33位

西岡良仁95年S75位D360位

ダニエル太郎93年123位

杉田祐一88年130位

内山靖崇92年S147位D504位

伊藤竜馬88年247位

添田豪84年250位

綿貫陽介98年252位

守屋宏紀90年288位

松井俊英78年268位

内田海智94年369位

望月慎太郎03年S399位D378位

清水悠太99年S404位D589位

今井慎太郎93年S416位D382位

野口莉央98年491位

徳田廉大98年505位

高橋悠介97年544位

島袋将97年548位

越智真96年597位

中川直樹96年610位

望月勇希97年613位

田島尚輝00年647位

上杉海人95年696位

山崎純平97年726位

川上倫平00年819位　市川泰誠00年899年　羽澤慎治99年976位　住澤大輔99年1006位　斎藤惠佑01年1071位

山中太陽01年1194位　渡邉聖太00年1197位　田形諒平99年1246位　今村昌倫98年1259位　菊池裕太99年1330位

三井駿介02年1534位　Trotter James99年1534位　白石光00年1836位　磯村志03年2002位

03年 望月慎太郎（神奈川）、末岡大和（兵庫）、磯村志（広島）、田中佑（神奈川）、小泉熙毅（埼玉）、井上玄意（三重）

04年 三好健太（東京）、中村健太（千葉）、原崎朝陽（兵庫）

05年 JONES怜音（三重）、眞田将吾（三重）、中島暁（長野）、前田優（兵庫）、松岡隼（神奈川）

06年 本田尚也（栃木）、富田悠太（愛知）、坂本怜（愛知）、宮里流星（沖縄）

07年 逸崎獅王（兵庫）、神山宏正（東京）、安藤雄哉（神奈川）、杉本環（千葉）

08年 鈴木琉斗（大阪）、駒田瑛人（兵庫）、田畑遼（埼玉）、松村怜（静岡）

09年 小林兼輔（東京）、香川荘太（香川）、源拓真（石川）、中富奏太（大阪）、櫻井義浩（千葉）、天野雄太（東京）、柳宏優（群馬）、松岡朔杜（愛知）、阿部素晴（静岡）、岡島夕朔（北海道）、安生竜輝（栃木）
木河瞭（福岡）、廣瀬勇太（香川）

赤字：ナショナル/ユース/ユニバ/Jrナショナル選出者・ポテンシャル
赤枠：ジュニア国別対抗戦代表選手
青枠：2020から2024に向けた特別Jr強化対象と想定される者

国内女子選手リスト 2021年ランキングと推移目標（男子）

10月4日付Ranking

WTAランク / 年: 2021 / 2022 / 2023 / 2024 / 2025 / 2026 / 2027 / 2028 / 2032

TOKYO 2020

PARIS 2024 / PARIS 2024

20th Asian Games Aichi-Nagoya 2026

LA 28

Brisbane 2032

4～8位以内
- 大坂なおみ97年S12位/DNR
- 青山修子87年S 位/D8位
- 柴原瑛菜98年S575位/D8位

32位
- 二宮真琴94年S 位/D49位

60位
- 加藤未唯94年S 位/D73位

100位
- 土居美咲91年S109位/D119位

132位
- 日比野菜緒94年S121位/D79位

150位
- 本玉真唯99年S160位/DNR
- 奈良くるみ91年S170位/D482位
- 森崎可南子96年S 位/D174位

200位
- 日比万葉96年S190位/D561位

230位
- 内藤祐希01年S238位/D439位
- 宮崎百合子96年S255位/D320位
- 村松千裕98年S292位/D472位
- 岡村恭香95年S298位/D337位

300位
- 穂積絵莉94年356位/D81位
- 大前綾希子93年S376位/D376位
- 華谷和生95年S377位/D538位
- 清水綾乃98年S402位/D401位
- 林恵里奈94年S442位/D227位
- 荒川晴菜99年S451位/D399位
- 小堀桃子98年S458位/D277位

～～～～～～

500位
- 内島萌夏01年S511位/D326位　細木咲良00年S516位/D773位　松田美咲98年S530位/D580位
- 川村茉奈01年S540位/D296位　山口芽生99年S555位/D655位
- 輿石亜佑美00年S578位/D905位　坂詰姫野01年S585位/D730位　光崎楓奈01年S594位/D297位
- 佐藤南帆01年S741/NR　清水映里98年S777位/NR　佐藤久真莉02年S784/NR
- カジュール・オヴィ02年S872位/D860位　阿部宏美00年S900位/D1432位

～～～～～～～～～～～～～

1000位
- 川口夏美02年S1006位/D 位

04年 古賀彩花（千葉）、久保杏夏（広島）、久保結希凪（三重）、駒田光音（愛知）、光崎澪（愛知）、奥脇莉音（埼玉）、伊藤あおい（東京）、小畑莉音（三重）、長谷川采香（東京）、櫻田しずか（静岡）

05年 虫賀心央（愛知）、虫賀愛央（愛知）、石井さやか（東京）、小林杏菜（福岡）、住吉凛（福岡）、松田鈴子（愛知）、大脇結衣（東京）

06年 齋藤咲良（群馬）、金巻知里（神奈川）、クロスリー真優（東京）、小池愛菜（東京）、木河優（福岡）、木下晴結（大阪）、北原結乃（神奈川）、網田永遠希（岡山）、林妃鞠（三重）

07年 辻岡史帆（埼玉）、後藤苺衣（静岡）、五藤玲奈（岡山）、上野梨咲（広島）、梅國莉音子(埼玉)、熊谷帆夏（神奈川）、山上夏季（東京）、堀川いち乃（京都）、井上季子（広島）
森下結葵（三重）、ディリマー雅（東京）

08年 園部八奏（埼玉）、小坂莉來（奈良）、早坂来麗愛（宮城）、市岡梓奈（埼玉）

09年 石井心菜（東京）、伊藤凛（東京）、渡辺葵依（広島）、大場莉子（北海道）、森下結有（三重）、駒田唯衣（岐阜）、服部天寧（三重）、吉野寿桃（京都）、西川小春（AUS、岡山）

赤字：ナショナル/ユース/ユニバ/Jrナショナル選出者・ポテンシャル
赤枠：ジュニア国別対抗戦代表選手
青枠：2020から2024に向けた特別Jr強化対象と想定される者

2021 ジュニア選手 分布図

海外拠点選手

U18 望月慎太郎 USA(神奈川)
末岡大和　CHN(兵庫)
井上玄意　　GER(三重)
U16 Jones Lennon FRA(三重)
U15 クロスリー真優 USA(東京)
小池愛菜 USA(東京)
U12　西川小春 AUS(岡山)

北海道 2選手

U12 岡島夕朔(北海道)
U12 大場莉子(北海道)

関西 12選手

U17 原崎朝陽(兵庫)
U16 前田優(大分⇒兵庫)服部怜矢(京都)
U14 逸崎獅王(兵庫)
U13 鈴木琉斗(大阪)駒田瑛人(兵庫)
U12 中富奏太(大阪)

U15 木下晴結(大阪⇒京都)
U14 堀川いち乃(京都)
U13 小坂莉來(大阪⇒京都)
U12 吉野寿桃(京都)

東北 1選手

U13 早坂来麗愛(宮城)

中国 6選手

U18 磯村志(広島)

U15網田永遠希(岡山)
U14五藤玲奈(岡山)河野望奈(岡山)
井上季子(広島　上野梨咲(広島)
U12 渡辺葵依(広島)

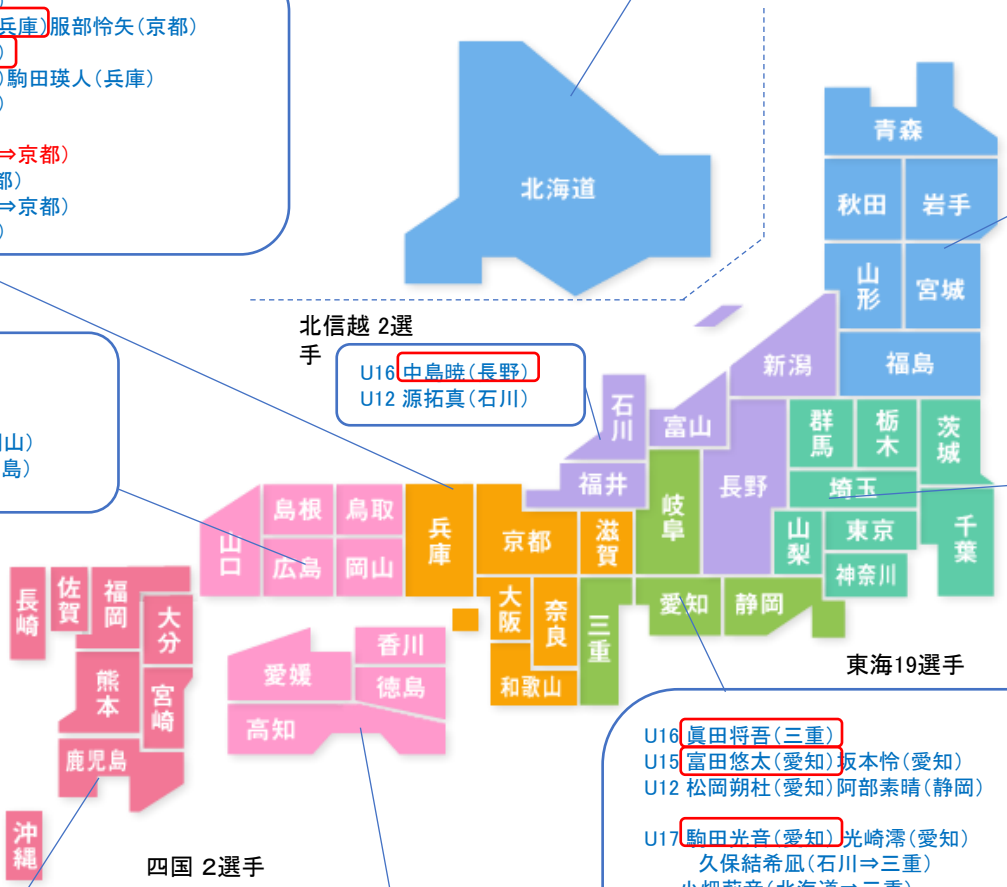
北信越 2選手

U16 中島暁(長野)
U12 源拓真(石川)

関東 33選手

U18田中佑(石川⇒神奈川)　小泉熙毅(埼玉)
U17三好健太(東京)
U16松岡 隼(神奈川)
U15本田尚也(栃木)
U14 神山宏正(東京)安藤雄哉(神奈川)
杉本環(千葉)
U13 田畑遼(埼玉)
U12 小林兼輔(東京)櫻井義浩(千葉)
天野雄太(東京)柳宏優(群馬)
安生竜輝(栃木)

U17 古賀彩花(千葉)久保杏夏(東京)
奥脇莉音(埼玉)伊藤あおい(東京)
長谷川采香(東京)
U16 石井さやか(東京)大脇結依(東京)
U15 齋藤咲良(群馬)　金巻知里(神奈川)
北原結乃(神奈川)
U14 辻岡史帆(埼玉)梅國莉音子(埼玉)
山上夏季(東京)熊谷帆夏(神奈川)
ディリマー雅(東京)
U13 園部八奏(埼玉)市岡梓奈(埼玉)
U12 石井心菜(埼玉)伊藤凛(東京)



東海19選手

U16 眞田将吾(三重)
U15 富田悠太(愛知)坂本怜(愛知)
U12 松岡朔杜(愛知)阿部素晴(静岡)

U17 駒田光音(愛知)光崎澪(愛知)
久保結希凪(石川⇒三重)
小畑莉音(北海道⇒三重)
櫻田しずか(静岡)
U16 虫賀心央(愛知)
虫賀愛央(愛知)
松田鈴子(愛知)
U15 林妃鞠(三重)
U14 後藤苺衣(静岡)森下結葵(三重)
U12 森下結有(三重)駒田唯衣(岐阜)
服部天寧(三重)

九州 8選手

U15 宮里流星(沖縄)
U12 木河瞭(福岡)

U16 小林杏菜(福岡)
住吉凛(大分⇒福岡)
U15木河優(福岡)

四国 2選手

U12 香川荘太(香川)廣瀬勇太(香川)

～2028を見据えた世界の若手男子選手リスト

年 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2032

ATPランク
10月4日付け

10位

11 Félix Auger-Aliassime (CAN)2000

14 Jannik Sinner (ITA)2001

37 Sebastian Korda (USA)2000

42 Carlos Alcaraz (ESP)2003

50位

68 Lorenzo Musetti (ITA) 2002

67 Jenson Brooksby (USA) 2001

78 Brandon Nakashima(USA) 2001

100位

97 Juan Manuel Cerundolo (ARG) 2002

120 Holger Vitus Nødskov Rune(DEN) 2003

150位

～～～～～～～～～～～～～～～

2003～2006年生まれジュニア時期ピックアップ選手リスト

2003 Luca Nardi (ITA,ATP440位) Daniel Rincon (ESP, ITFJr2位,ATP1049位) Jerome Kym(SUI,ITFJr5位,ATP1116位) Giovanni Mpetshi Perricard (FRA, ITFJr12位,ATP674位)

Martin Damm (USA,ATP580位) Samir Banerjee (USA,ITFJr3位) Sascha Gueymard Wayenburg (USA,ITFJr7位) Viacheslav Bielinskyi (UKR,ITFJr10位)

2004 Sean Cuenin (FRA,ITFJr16位) Arthur Fils (FRA,ITFJr5位) Luca Van Assche (FRA,ITFJr4位) Victor Lilov (USA,ITFJr6位) Bruno Kuzuhara (USA,ITFJr8位)

2005 Gabriel Debru (FRA,ITFJr43位) Antoine Ghibaudo (FRA,ITFJr108位) Dino Prizmic (CRO,ITFJr102位) Juncheng Shag (CHN, ITFjr1位) Jakub Mensik (CZE,ITFJr38位)

2006 Alexander Razeghi (USA,ITFJr202位) Martin Landaluce (ESP, ITFJr233位)

～2028を見据えた世界の若手女子選手リスト

10月4日付Ranking

WTAランク 10月4日付け	年 2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2032

10位

11. Iga Swiatek(POL)　2001
13. Sofia Kenin(USA) 1999
16. Elena Rybakina(KAZ) 1999

20.Coco Gauff(USA)2004
21. Bianca Andreescu(CAN) 2000
22. Emma Raducanu(GBR) 2002
28. Leylah Fernandez(CAN) 2002
37. Marketa Vondrousova(CZE) 1999
41. Liudmila Samsonova(RUS) 1999

50位

49.Clara Tauson(DEN) 2002
54.Marta Kostyuk(UKR) 2002
59.Ann Li(USA)2000
67.Maria Camila Osorio Serrano(CLO)2001
70.Anastasia Potapova(RUS) 2001
75.Dayana Yastremska(UKR)200
78.Clara Burel(FRA) 2002
92.Amanda Anisimova(USA)2001

100位

95.Kaja Juvan(SLO) 2001
117.Wang Xinyu(CHN)2001
126.Olga Danilovic(SRB)2001

150位

135.Elisabetta Cocciaretto(ITA)2001

～～～～～～～～～～～～～～

1998 Aryna SABALENKA(BLR,WTA11位) Viktoria KUZMOVA(SVK,WTA57位) Vera LAPKO(BLR,WTA62位)

1999 Sofia Kenin(USA,WTA50位) Marketa VONDROUSOVA(CZE,WTA68位) Catherine Bellis(USA,WTA128位) Katie SWAN(GBR,WTA167位)

2000 Dayana Yastremska(UKR,WTA102位) Sofya Zhuk(RUS,WTA133位 Claire LIU(USA,WTA139位) Katarina ZAVATSKA(UKR,WTA178位 Destanee Aiava(AUS,WTA222位 Bianca ANDREESCU(CAN,WTA240位)

2001 Amanda Anisimova(USA,WTA92位) Anastasia POTAPOVA(RUS,WTA93位) Olga DANILOVIC(SRB,96位) Iga SWIATEK(POL,WTA177位) Xiyu WANG(CHN,WTA180位) Leylah Fernandez(CAN) Kaja JUVAN(SLO,WTA195位)
MajaChwalinska(POL,WTA336位)

2002 KOSTYUK,Marta(UKR,WTA120位) OSUIGWE,Whitney (USA, 2位,WTA322位) PARRY,Diane(FRA,41位) Clara TAUSON(DEN,9位,WTA761位)

2003 LOPATETSKAYA,Dasha(UKR,26位) PRICE,Gabriella(USA,43位) SELEKHMETEVA,Oksana(RUS,48位)

2004 GAUFF,Cori(USA,4位) SHNAIDER,Diana(RUS,82位) Noskova,Linda(CZE,127位) Robin Montgomery(USA)

2005 Victoria Jimenez Kasintseva(Andorra,1位WTA390位)、FRUHVIRTOVA,Linda (CZE,8位) EALA,Alexandra(PHI,2位) Celine Naef(SWS,37位),,Michaela Laki(GRE,22位), Nikola Bartunkova(CZE,28 位)、Isabella Kruger(RSA,WTA671位)

2006 BrendaFruhvirtova(CZE,10位)、Clervie Ngounoue(USA,48位)、Victoria Mboko(CAN,57位)、Sara Bejiek(CZE,64位WTA380位)

2007 Alina Korneeva(RUS),Mirra Andreeva(RUS,46位),Mathilde Ngijol Carre(FRA)

1998～2007年生まれジュニア時期ピックアップ選手リスト
＊2010年からリサーチ開始　ランキング˜2005生まれ 2018年9月作成

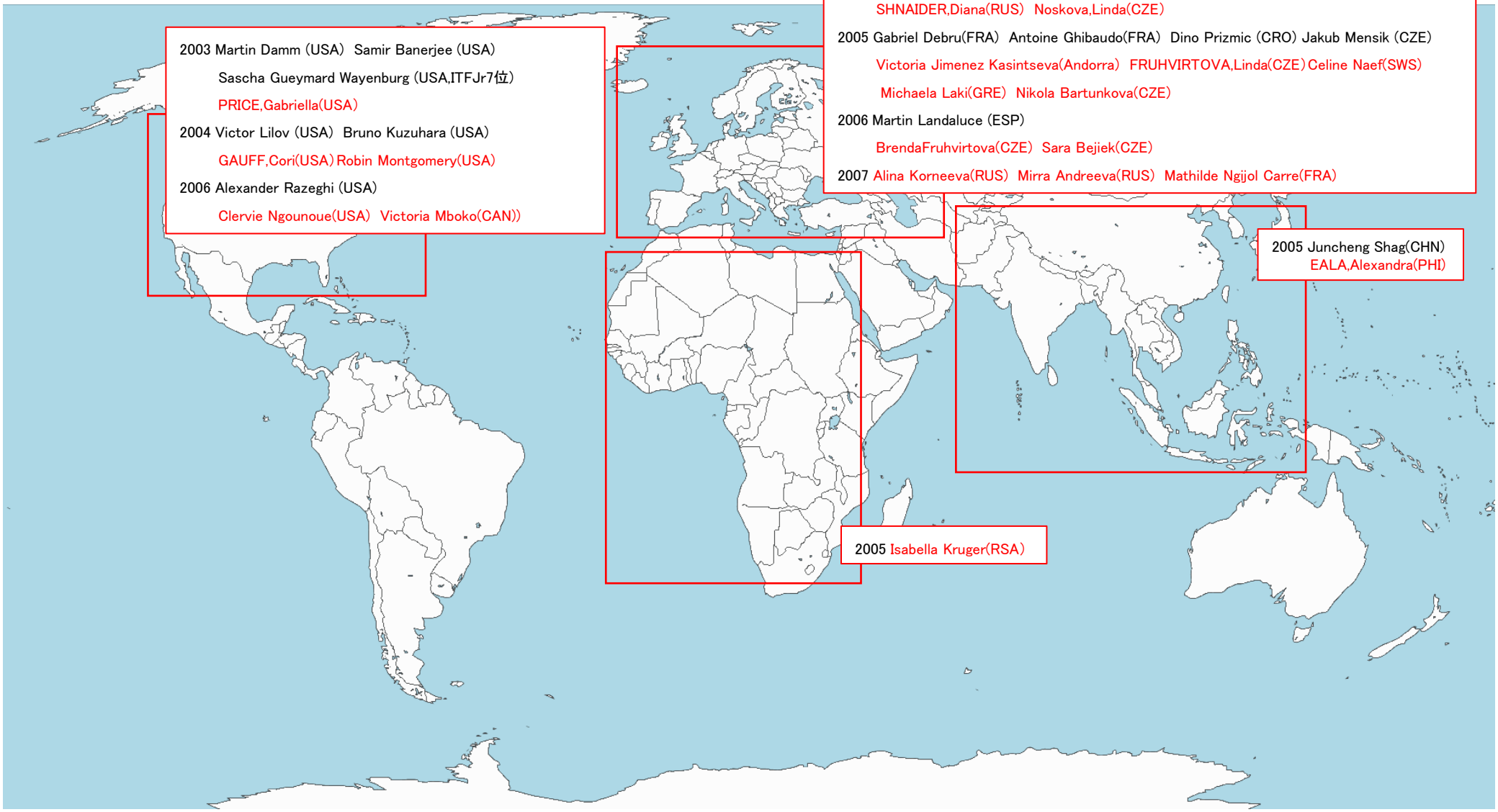
☆16歳において、WTAランク500～600位の選手

☆15歳においてITFジュニアランク50位以内 GSで本戦ダイレクトの位置におり、すでにトランジションに入っていける選手

☆14歳において国別対抗戦、レピタス、ジュニアオレンジボウルなど主要大会で良いパフォーマンス

2021 世界ジュニア選手 分布図(2003～2007生まれ)

2003 Luca Nardi (ITA) Daniel Rincon (ESP) Jerome Kym(SWS) Giovanni Mpetshi Perricard(FRA)
Viacheslav Bielinskyi (UKR)
LOPATETSKAYA,Dasha(UKR) SELEKHMETEVA,Oksana(RUS)
2004 Sean Cuenin(FRA) Arthur Fils (FRA) Luca Van Assche (FRA)
SHNAIDER,Diana(RUS) Noskova,Linda(CZE)
2005 Gabriel Debru(FRA) Antoine Ghibaudo(FRA) Dino Prizmic (CRO) Jakub Mensik (CZE)
Victoria Jimenez Kasintseva(Andorra) FRUHVIRTOVA,Linda(CZE) Celine Naef(SWS)
Michaela Laki(GRE) Nikola Bartunkova(CZE)
2006 Martin Landaluce (ESP)
BrendaFruhvirtova(CZE) Sara Bejiek(CZE)
2007 Alina Korneeva(RUS) Mirra Andreeva(RUS) Mathilde Ngijol Carre(FRA)



中長期強化育成プランを実現するための財務計画（2022-2026）

A	2022（現状）	2023	2024	2025	2026
ナショナル、D杯/BJK杯	52,600	100,000	107,200	110,000	120,000
Next Gen	162,480	170,000	176,800	180,000	190,000
ジュニア	75,810	80,000	88,800	90,000	100,000
テニピン、P＆S	0	15,000	30,000	35,000	40,000
事業費計	290,890	365,000	402,800	415,000	450,000
助成金、委託費(JOC)	83,880	75,000	75,000	75,000	75,000
助成金（JSC他）	56,590	40,000	40,000	40,000	40,000
協賛（マーケティング）	49,500	174,000	231,000	250,000	295,000
特定寄附（普及育成強化）	26,000	28,000	30,000	32,000	34,000
一般財源	74,920	48,000	26,800	18,000	6,000
収入計	290,890	365,000	402,800	415,000	450,000

B	2022（努力目標）	2023	2024	2025	2026
ナショナル、D杯/BJK杯	82,600	100,000	107,200	110,000	120,000
Next Gen	162,480	170,000	176,800	180,000	190,000
ジュニア	75,810	80,000	88,800	90,000	100,000
テニピン、P＆S	5,000	15,000	30,000	35,000	40,000
事業費計	325,890	365,000	402,800	415,000	450,000
助成金、委託費(JOC)	83,880	75,000	75,000	75,000	75,000
助成金（JSC他）	56,590	40,000	40,000	40,000	40,000
協賛（マーケティング）	84,500	174,000	231,000	250,000	295,000
特定寄附（普及育成強化）	26,000	28,000	30,000	32,000	34,000
一般財源	74,920	48,000	26,800	18,000	6,000
収入計	325,890	365,000	402,800	415,000	450,000